

三宮再整備経済効果検討委員会（第1回）議事概要

1. 日 時 2019年9月3日（火）15:00～17:00

2. 場 所 神戸市役所1号館14階 1141会議室

3. 出席者

[座 長] 加藤 恵正 兵庫県立大学大学院 教授

[委 員] 小谷 通泰 神戸大学 名誉教授

※中村委員には個別に意見徴収

[委託先] 神戸大学工学研究科 小池教授、株式会社価値総合研究所

[事務局] 神戸市都市局都心再整備本部

4. 議事要旨

- ・ 検討の全体像として、①三宮再整備事業により期待される効果の整理、②効果計測の前提条件の設定、③来訪需要・オフィス需要の予測、④経済効果の計測、を行うこととした。
- ・ 需要予測モデルは、通勤・買物・観光・出張など、来訪目的によって、需要の変化が異なるので、それぞれのモデルを作成する。これらのモデルにより、三宮への来訪者数・従業者数を予測し、その結果をもとに経済効果を推計する。需要予測モデルの構造は、発生モデル、目的地選択モデル、交通手段選択モデルの3段階とする。
- ・ 三宮再整備により、企業の立地や来訪者が増加し、消費や投資が増加することで経済効果が発生し、その経済効果を求めて、人口が流入することが予想される。しかし、人口増加を前提とした経済効果は不確実性が大きいいため、三宮再整備による人口の増減への影響はない前提で経済効果を推計する。
- ・ 需要予測モデルの目的地の設定については、日常生活圏内は近畿圏のパーソントリップの計画基本ゾーンレベル、日常生活圏外の方は日本全体の旅客純流動調査（市町村単位）をベースとする。三宮ゾーンについては、パーソントリップで中央区は5つに分かれているので、ポートアイランドを除いた残りの4つを三宮ゾーンとする。
- ・ 経済効果の推計については、フロー効果とストック効果を計測する。フロー効果については、直接効果が建設投資額となり、波及効果は直接効果に神戸市産業連関表を用いて推計する。ストック効果は、来訪者の増加による消費支出の増加と、企業の増加による生産額の増加を直接効果として推計する。得られた直接効果に、神戸市産業連関表を用いて波及効果を推計する。
- ・ 三宮再整備により誘発される生産は全て市内で賅われるものではない。経済効果の過大推計にならないように神戸市産業連関表の開放型を採用する。

- ・ H23 神戸市産業連関表を用いて将来の経済効果の推計が可能であるかという懸念があるが、H23 神戸市産業連関表は現時点の最新データであり、H23 のデータであっても産業構造を細かく分類して計算して、その後集計するのであれば、結果についてはそれほど影響がないと考えられる。